

小別沢新聞

11月

2022年(令和4年)

第14号

発行：札幌市農政部
(TEL 211-2406)
編集：株式会社ダズリング
(TEL 615-7000)

郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

小別茶話会の報告

第8回 2022年9月20日開催

台風が過ぎた9月20日(火)、地域へ向けた「森づくりの説明会」(2面参照)の後、引き続き16時から小別沢会館にて行われました。参加者

は8名(町内会員(特別会員含む)6名、その他2名)でした。

最初に、令和4年度に市が取りまとめる「事業モデル」



また、今回は、南区北ノ沢で活動するNPO法人さっぽろ農学校倶楽部の本間さんが、地域や

の概要や、これまでの茶話会でも話されてきた「中間支援組織」が中心となって地域の取組を進めていく体制について説明があり、他都市の事例等が紹介されました。

学校、市役所など様々な組織と連携して行っている食育などの取組について紹介してくださいました。

農学校倶楽部では、会の結成から17年目を迎え、会員の高齢化などから組織の考え方や取組を変えたこと、子ども食堂への野菜の提供だけでなく、市立大学や保健所と連携しておいしいレシピを考案していること、小別沢と同じく、円山動物園でゾウの餌となるトウキビの茎やカボチャと、



今年から NPO法人さっぽろ農学校倶楽部の圃場では、円山動物園の「ゾウふん堆肥」を活用。そのお礼にプレゼントしたトウキビの茎とカボチャを食べる様子を家族とともに見学した

写真：NPO法人さっぽろ農学校倶楽部提供

ゾウふん堆肥を交換し、畑に循環させる取り組みを始めたことなど、身近な地域でのお話しを聞くことができました。

気を付けていることは、「お金を使わないで、手間も増やさないで人を集めること」だそうです。自分たちのできる範囲で、無理なく活動するという考え方がシンプルでわかりやすく、とても素敵でした。参加者から、森の枝葉とカボチャと一緒にゾウにあげてみてはどうか、という提案もあり、今後の活動の広がり期待です。

最後に市からは、これまでの話し合いから、「自然と人の共生」「景観保全」「街と里

山のつながり」をキーワードとした、

- ・農林業の振興

- ・地域コミュニティの醸成

- ・子どもの自然体験・学習

に関連する取組が重要と考えられること、こうした取組を支援する新たな補助制度の創設を目指していることについて説明がありました。

次回の小別茶話会では、事業モデル(素案)や今後の取組などについての話し合いを予定しています。地域の方のご参加をお待ちしております。

第9回 小別茶話会

日時：11月15日(火) 16:00~17:30

場所：小別沢会館(札幌市西区小別沢49)

*町内会以外の方で初めて参加を希望される方は準備の都合上、事前に下記担当者までご連絡ください。

☎211-2406(札幌市農政部農政課 内野・石堂)



道は人工の空間のため、草が生えにくいよう、心土(無機質土)を使用するなどの工夫が凝らされている

今年度は約700mの作業道ができました



9月20日小別茶話会同日、out woodsの足立成亮さんによる森づくりの説明会が行われ、地域内外から8名の方が参加しました。
8月にできたばかりの森林

作業道をゆつくり歩きながら、伐る木の選び方、生えている草木の説明、来年の道づくりや間伐の計画の説明等がありました。
森林作業道は、雨水の流出を分散させる「水」、訪れる人が楽しくなるような「景觀」、直線が長いほど事故が起こりやすいため「安全性」の3つを意識し、カーブと傾斜をゆるやかにつけながらつくっていくそうです。道をつくるためには、捨てない、足ささない、そこにあるものを全部使って道をつくるという、環境に配慮した考え方の説明もありま

した。
また、間伐では、なるべく大きな木を残して、その周りの傾いた木や弱っている木を伐つて薪などに活用するそうです。森のレイヤー(階層)を立体的につくることを意識し、細かく状況を見て、どの木を残すか選ぶ、選木のセンスが問われるそうです。
また、枝葉や下草を材料として化粧品を作るといった新たな業種との関わりによって、森の資源の活用が広がるなどの興味深いお話に、参加者は楽しみながら質問していました。
森づくりは始まったばかりです。ご興味のある方はぜひ、次回の説明会にお越しください。

さとやま体験会&マルシェ



木こり体験の様子

10月22日に、NPOあおいとりの主催で、「さとやま体験会&マルシェ」が開催されました。秋の小別沢を巡ろうというテーマのもと、小別沢の森や木、農作物にふれる3つの体験会のほか、地域の直売所などをめぐるイベントです。当日は天候にも恵まれ、たくさんの方が訪れていました。
「木こりと体験、ヤマのこ」とでは、木こりの足立さんが講師となり、今年できた森林作業道を歩きながら、森づくりの話や奥三角山への登山、薪割り体験、コースター作りなどが行わ

が途切れませんでした。
『みそちゃん』の著者で絵本作家のかとうまふみさんによる「味噌づくり体験」では、小別沢産の大豆を薪ストーブで茹でて臼と杵や、手でつぶすなど、昔ながらの味噌づくりが行われました。
普段はなかなかできない体験の数々に大人も子供も真剣になって楽しんでいて、今までは少し違った里山の風景や魅力が小別沢に生まれた一日でした。



マグネット制作の様子

れ、30名以上の参加がありました。
「森の樹マグネット制作」では、木工作家の清水さんが講師となり、小別沢に生えていた10種類の木の違いを楽しむマグネット制作が行われ、のべ50件近い参加があるなど、最後まで人が途切れませんでした。

小別沢の あのヒト このヒト

(株)やまのかいしゃ
のみなさん

―株式会社やまのかいしゃに
ついて教えてください

野中：代表の永田さんを中心
に、木野さん、足立さん、野
中の4人で、令和4年3月に設



左から木野さん、永田さん、足立さん、野中さん

立した会社です。

―やまのかいしゃを作ったきっかけは何ですか？

永田：これまで、私が代表を務めるNPOあおとりで今の里山事業のような活動をしてきましたが、関わるメンバーや求められる役割が変わってきたので、今の状況に合わせて新しく仕切り直そうという事で立ち上げました。

―どのような事業や活動を行うのでしょうか？

木野：先に事業があつて会社を作ったわけではないので、今はまだ、明確に決まっていることはありません。これから、小別沢の地域課題の解決も含めて考えていければと思っております。農業や林業をするとかもあるけど、小別沢の魅力が発信できるように、中間支援組織として地域づくりに関わっていきたいです。

ちにも関心を持ってもらえるように発信していきたいですね。
足立：文化・芸術分野に強いメンバーがいるので、そういう方面で多様なコミュニティを育てたら良いですね。特に重要だと思ふのは福祉や教育分野との連携です。施設を建てるとかではなく、福祉施設の一部の機能を小別沢にインストールするようなイメージです。

永田：以前に小別沢茶話会でお披露目した小別沢妄想マップを実現することが、やまのかいしゃのひとつの目標と言えると思います。

―活動のフィールドとして小別沢を選んだ理由は？

―「中間支援組織」は、あまり聞きなれない言葉だと思えます。どのような地域づくりを考えているか、もう少し詳しく教えてください。

永田：小別沢は農地が狭くて傾斜が多くて、大規模な農業をやる人には向かないけど、だからこそできる半農半Xのような形に可能性を感じています。

木野：居住者を増やしていくというよりも、関係人口を増やしたいと考えています。週末に来てくれる人、休暇や余暇を過ごす人、趣味を楽しむために来てくれる人、みたいな年に10日ぐらい訪れる人が100人、200人と増えたら面白いですね。

―最後に、小別沢が将来どのようになって欲しいと思えますか？

二世代目、三世代目の人たちが故郷として受け止められる場所だつてことを内部の人たちだけではなく、外部の人たち

木野：多様なひとたちが集まることで、生き活きとした様々なコミュニティグループが生まれ、それによってまた新しい取組が自然発生的に生まれる。そうやって小別沢が活性していけば、他の里山地域にも良い影響を波及していけるんじゃないでしょうか。

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

里山事業の
スケジュール

小別沢新聞

第12号

第13号

第14号
(この号)

第15号

第16号

小別茶話会

第7回
7月12日(火)

第8回
9月20日(火)

第9回
11月15日(火)

第10回

森林整備
森林経営管理法

森林作業道
づくり

森づくりの
説明会



小別沢の情報を発信します!!

(株)やまのかいしゃのホームページでは、小別沢の地域づくりに関わる情報を発信しています。小別沢でホームページを公開している方のリンク也大歓迎です。

<https://kobetsuzawa-satoyama.localinfo.jp/>



お問い合わせ先：✉ yamanokaisya.info@gmail.com



これまでの小別沢新聞は札幌市役所公式ホームページで公開しています。

札幌 里山



で検索!

<https://www.city.sapporo.jp/nogyo/satoyama.html>

